

|      |                    |      |      |
|------|--------------------|------|------|
| タイトル | ちがうくにでも、おなじこと      |      |      |
| 名前   | 下村 真世              |      |      |
| 学校名  | 京都市立久我の杜小学校        |      |      |
| 担当教科 | 全教科                |      |      |
| 実践教科 | 道徳、学級活動、算数、音楽、図画工作 | 時間数  | 17時間 |
| 対象学年 | 第1学年               | 対象人数 | 34人  |

## カリキュラム案

### (1) 実践の目的

- ・タンザニアの（子どもの）1日を、疑似体験させ、違いと同じについて知り、考えさせる。
- ・言葉がなくても通じるものを知り、タンザニアや世界に興味を持たせる。

### (2) 授業の構成案

| 時限・テーマ・ねらい   | 方法・内容  | 使用教材           |
|--|--|----------------|
| <b>1・2限目</b><br>テーマ：タンザニアに行ってみよう（出会い編）<br>ねらい：タンザニアに興味を持たせる。 | ①絵本「TIKITIKI」から、優しい心に気づく。<br>→ Dihewa（登場人物）になりきって、言葉を考える。<br>→ 「一つしかないなら、分け合えばいい」という優しい気持ちの大切さ、タンザニアと日本の気持ちの同じを知る。 | ・タンザニアの絵本      |
|  | ②タンザニアへ行き、都市と村の様子を知る。<br>→ Google earth で久我の杜小学校からタンザニアへ飛び、日本と世界を知る。<br>→タンザニアが遠い国であることに気づく。                       | ・Google earth  |
|  | ③タンザニアクイズで、タンザニアを日本と比べながら考える。<br>→〇×クイズで、国土の広さや人口などのタンザニアの基本事項について知る。また、次時につながる〇×クイズを入れ、タンザニアへの興味を湧かせる。            | ・タンザニア〇×クイズ10問 |

| 時限・テーマ・ねらい  | 方法・内容   | 使用教材   |
|---|---|--|
| <p><b>3～7 限目</b><br/>                     テーマ：同じと違いを知ろう (親しみ編)<br/>                     ねらい：日本とタンザニアの同じを見つけ、親近感を持たせる。また、日本とタンザニアの違いを見つけ、国による文化や習慣の違いを理解させる。</p> | <p>①ウガリを食べて、食の同じを知る。<br/>                     →日本の主食が米であることを確認し、タンザニアの主食がウガリであることを知る。<br/>                     →手で食事をする習慣があることを知り、実際に目の前で調理し、それを口にすることで、視覚・嗅覚・触覚・味覚から感じたことを話し合う。</p>  | <p>・とうもろこしの粉<br/>                     ・ウガリ作成の写真</p>  |
|   | <p>②タンザニアの小学生と同じところと違うところを見つける。<br/>                     →算数の引き算の問題を解き、数字や－・＝の記号の同じに気づく。<br/>                     →読み方の違いを知り、スワヒリ語に親しむ。</p>   | <p>・算数の教科書</p>   |
|   | <p>③音楽 (歌) を聞いて、身体でリズムを感じたり、歌ったりする。<br/>                     →言葉やリズムの違いに気づく。また、テンポのよさや歌う楽しさが同じことに気づく。<br/>                     →「幸せなら手をたたこう」をスワヒリ語で歌うことで、スワヒリ語に親しみを感じさせる。そして、タンザニアの子どもの歌「kujua kusoma」を歌うことにつなげる。</p>   | <p>・子どもの歌本</p>   |
|   | <p>④ティンガティンガを見て、描く同じに気づく。<br/>                     →ティンガティンガの作成方法について知る。<br/>                     →絵からタンザニアに住む動物を見つける。</p>  | <p>・ティンガティンガ</p>   |
|   | <p>⑤マコンデ彫刻を見たり触ったりして、タンザニアの芸術を感じる。<br/>                     →一本の木を彫ってつくってあることに気付かせ、タンザニアの芸術に親しむ。<br/>                     →マコンデ彫刻における人物の様子から、日本人との外見の样子の違いを考える。</p>   | <p>・マコンデ彫刻</p>   |
| <p><b>8～13 限目</b><br/>                     テーマ：水とわたしとタンザニア (深まり編)<br/>                     ねらい：水の大切さに気付かせ、他学年に伝えさせる。</p>  | <p>①トイレは、どうやってすればいい？<br/>                     →タンザニアのトイレを再現し、実際にどの方向で座ってやるのかを考える。また、写真から流す水がないことに気づき、タンザニアの水事情に興味を持つ。</p> <p>②水はどこからやってくるの？<br/>                     →タンザニアにおける水不足の現状と、世界における生活用水の事情を知る。</p> <p>③タンザニアで1日生活しよう。<br/>                     →1日の手洗いを2ℓペットボトルで行い、手洗いに使う水の量の多さに気づく。<br/>                     →1分間に流れる水の量を実際にペットボトルに入れてみて、蛇口から流れる水の量の多さに気づく。<br/>                     →限られた物を工夫して使うタンザニアの人の知恵に気づき、自分の生活を振り返る。</p> | <p>・トイレの写真</p> <p>・水質のわかる写真<br/>                     ・シャワーの写真<br/>                     ・病院での井戸ポンプの写真</p> |

| 時限・テーマ・ねらい   | 方法・内容   | 使用教材                 |
|--|---|----------------------|
|  | ④水の大切さを伝えるポスターを作ろう。(3時間)<br>→8～10限目の学習を通して気付いたことをもとに、水の大切さを伝えるポスターを作成する。<br>→校内の手洗い場に掲示することで、全校児童に水の大切さを伝え、節水を促す。 | ・水と人びとのくらし<br>(文研出版) |
| 14～17限目<br>テーマ：みんなに知らせよう(広がり編)<br>ねらい：タンザニアの学習を通して出会った新しい自分に気付かせる。 | ①学習してきて知ったことや気付いたこと、思ったことをまとめる。<br>→タンザニア紹介の掲示物にまとめる中で、学習前との考えの変化に気づく。<br>→他の国へも興味を湧かせ、その輪を全校児童に広める。              |                      |

## 実践授業の詳細

### <1限目：絵本「TIKITIKI」から、優しい心に気づく。(道徳)>

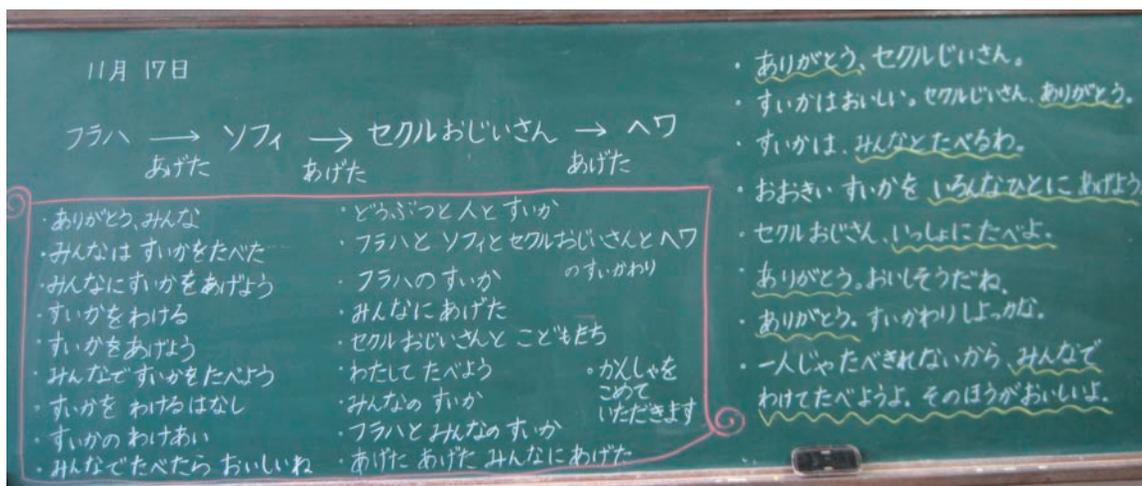
読み聞かせ(スキャンした絵本を、パワーポイントで1ページずつ提示)で進めた。

フラハ、ソフィ、セクルおじさん、ヘワ(仮名)という登場人物が、順々にすいかを譲っていくお話である。

途中で止め、「この後、ヘワちゃんは、一体なんと言うでしょうか?」と投げかけた。子どもたちには、配布プリントの噴出しに書き込ませたのだが、最初は、「ありがとう。」で終わる子どもが多く見られた。しかし、「分け合う」というニュアンスの言葉を書く子どももいて、「ありがとうの続きを書いている子もいるよ!」と子どもたちに促すと、思いおもいに自分の言葉で書き足していった。ほとんどの子どものプリントが、温かな言葉でいっぱいになっていった。お話を読みきり、最後に、本の題名を考えて書かせた。本当は「すいか」というタイトルであるが、上記の学習の流れから、温かな本の題名がたくさん誕生した。



↑ヘワの言葉を考えよう。



↑左側：子どもたちの考えた題名。 右側：子どもたちの考えたヘワの言葉。

**絵本からわかったこと・気付いたこと**

- 動物がいっぱいいるね。
- 服は日本の服とちがうね。
- すいかの形が違うね。鳥の卵みたいだね。
- すいかは外国にもあるんだね。
- 日本の人と、顔も一緒だね。

**絵本から疑問に思ったこと**

- どうして髪の毛がなかったの？
- どんなご飯を食べているの？
- どんな果物を食べているの？
- どんな家に住んでいるの？
- すいかはどの国にもあるの？

**1 限目の児童の感想**

- すいかを分けた話を見たら、みんなに何かを分けたくくなりました。
- ヘワは、「やっぱりみんなで食べたほうがおいしいよ。」と、言っていると思います。フラハは、「ソフィに渡してよかったな。」と言ったのだと思います。

## < 2 限目：タンザニアへ行き、都市と村の様子を知る。また、タンザニアクイズで、タンザニアを日本と比べながら考える。(学級活動) >

まず、Google earth でタンザニアへ行くという疑似体験をさせた。日常生活の行動範囲がまだまだ狭い子どもたちにとっては、タンザニアに向かう前から（京都が日本のどの辺りにあるのか、日本がどんな形をしているのか、日本の地図上での位置など）とてもたくさんすることに気付き、驚きの声が大きかった。また、タンザニアの中でも、ダルエスサラームは、「日本と一緒にやん。」と、建物がたくさん建っていて上空からの様子がとても似ていることに気付いていた。地方では、「木ばかりやん。」という子どもの言葉からも、ダルエスサラームとの違いの大きさを感じているようだった。

次に、タンザニア〇×クイズを10問行った。日本と同じか違うかという視点で考えさせ、気付きを持たせたいと考え、行ったが、やはり1年生には、国土や人口を問う問題は難しそうだった。しかし、日本より広いが、住んでいる人が少ないということに疑問を抱く子どももいた。子どもたちの興味を一番惹いたのは、Q4だった。「動物が公園にいるの！」と、学校の側のいつも遊んでいる公園を想像しながら目を丸くして驚いている子どもたちがほとんどだった。Q5では、カンガと書かれた言葉の意味を説明してから、着て見せると、「エプロンみたい。かわいい。」「給食の時に、カンガ着たら。」という声上がり、子どもたちにとっても親しみやすいものだったようだ。

Q6からは、次時からの学習につながる問題にしたので、答え合わせを待ち遠しそうにしている子どももいた。

**タンザニア〇×クイズ ～日本と同じ？違う？～**

- Q1. タンザニアは、日本よりも広い。
- Q2. タンザニアには、日本よりもたくさんの方が住んでいる。
- Q3. タンザニアは、海に浮いた島国である。
- Q4. タンザニアでは、公園に動物がいる。
- Q5. タンザニア人も、着物を着ている。
- Q6. タンザニアも、主食はお米である。
- Q7. タンザニアの子どもたちも小学校に通っている。
- Q8. タンザニアにも、わくわくするような音楽がある。
- Q9. タンザニアにも、仏像がある。
- Q10. タンザニアも、水洗トイレである。

### < 3 限目：ウガリを食べて、食の同じを知る。(学級活動)>

タンザニアの主食は、とうもろこしの粉から作られるということに、「お米じゃないんだ。」と、反応が大きかった。子どもたちの目の前で調理を始めると、粉からどんどん固まりになってウガリが出来上がるまで、一心に様子を伺っていた。給食時間に、手で丸めさせ、まずはそのまま、次におかず（カレーやひじきのソティ）と併せて食べた。いつも食事を手で食べてはいけないと注意されているためか、日本の風習との違いに少し戸惑いつつも、楽しそうに気持ちよさそうに手を使って食べていた。予想とは裏腹に、苦手と感じる子どもは数人で、「おいしい。」「もっと食べたい!」「もうないの。」と、多くの子どもがウガリに好印象だった。

**タンザニアの しゅしょく ウガリを**

**見たら...**

- ぶつぶつが、みえた。
- まろくて、しめがた。
- ごはんみたいだった。
- おもちみたいだった。
- やわらかそうだった。
- おいしそうだった。
- こねの粉たまりだった。
- かたそうに、おえた。
- おいしくなそうだった。
- ゴルフボールみたいだった。
- こむぎこみたいだった。

**さわったら...**

- きもちよかった。
- もちもちしていい。
- かたかたつくれそうだった。
- ふわふわだった。
- おもちみたいだった。
- どこぼこしていた。
- にちやにちやしていた。
- てに、くっつきやすかった。
- ざらざらだった。
- おぎごはんみたいだった。
- ねばねばしていた。
- もちもちしていた。

**においだら...**

- とうもろこしのにおいだった。
- ほろのにおいにおいがした。
- おいしいにおいだった。
- いいにおいだった。
- もちのにおいだった。
- なにもにおいがしなかった。
- ごはんみたいにおいがした。
- にがいにおいがした。

**たべたら...**

- たべたら、口の中が すざりした。
- デザートみたいだった。
- ひじきにつけたら、おいしかった。
- カレーと たべたら、おいしかった。
- なにも つけなかったら、ぜんぜんおいしかった。
- おいしかった。
- さいしよは だんごの おいがして、さいごは もちの おいだった。
- にがめた。
- じりじりしていた。
- なにも おいがしなかった。
- しきしき おとがなった。
- こねのつぶつぶが のこった。
- たべたら、しあわせになった。
- いっぴい たべたくなった。

↑ 児童の感想

↓ ウガリを作る鍋と鍋つかみ



↓ ウガリと食事



ウガリを食べる子どもたち

### < 4 限目：タンザニアの小学生と、同じところと違うところを見つける。(算数)>

「タンザニアの子どもも、小学校に通っているか。」という問いに対して、2限目の地方の様子が印象深かったのか、家で問題集を買って勉強しているという意見もあった。また、全校児童の多さに驚いている子どもが多かった。フォトランゲージで、小学校の教室での学習風景から分かることを挙げさせた。

すると、自分たちのいる教室と見比べて、たくさんの違いや同じを見つけることができた。その中で、ある子どもが、「みんな、めっちゃ集中してる。」と、タンザニアの子どもたちの勉強に対する姿勢に気付き、他の子どもたちも、「ほんまやあ。」と、尊敬の眼差しで、自らも姿勢を正す児童の姿もあった。参観した体





育や算数の授業について話した後、タンザニアの子どもになって勉強してみようと投げかけた。実際に、既習の引き算の問題を、現地で購入した教科書の中から選び、子どもたちと解いてみた。問題づくり、式、答えと、自信満々で答える子どもたちに、「3ひく2？式が違うよ！」と言うと、「なんでなん？」「あってる！」と主張し出す子どもたち。タンザニアの子ども

になって、「tatu kutoa moja ni sawa na mbili.」と言うと、「ん？」「英語？」と、困惑した表情を浮かべていた。数字は同じだけれど、日本語とスワヒリ語の違いを知り、1～10をスワヒリ語で練習する内に、「スワヒリ語を話したい！」という気持ちが、一人ひとりの中で、とても大きなものになっていったようだった。練習の後、「タンザニアの子どもになれたかな？式はどうなりますか？」と聞くと、話せるようになったスワヒリ語を使いたい！とばかりに、たくさんの子どもがチャレンジしようとする姿が印象的だった。詰まりながらも、



一生懸命スワヒリ語を話そうとする子どもたちの姿から、タンザニアがとても近い存在になってきていると感じた。



最後に、参観して下さった JICA 国際協力推進員の方へお礼を伝える際に、「Asante sana」を子どもたちに教えた。最後までタンザニアの子どもになりきることができた子どもたちは、とても嬉しそうだった。「ありがとう」という言葉は、その後の学習でも大変使う機会が多く、高学年による読み聞かせや、食育指導などの終わりに、「先生、あさんてさあなで言おう！」と言ってくる子どもが多く、徐々に全校へとスワヒリ語のふわふわ言葉が広がりを見せている。また、兄弟や保護者からも、家庭で使っているという話を聞くことができ、嬉しく感じている。



**同じだね。**

- 緑の黒板が同じ。
- 算数の数字が同じ。
- 屋根があるところが同じ。
- 算数も体育もするんだね。
- 学校がある。
- ノートが同じだよ。

**違うよ！**

- 天井に電気がない。
- カーテンがないよ。
- 扇風機もストーブもないよ。
- 飾りも給食台もないよ。
- 3人で座るところが違うよ。
- 小学校7年生まであるんだね。
- 算数の数え方が違うんだね。
- 窓がないんだね。
- 時計がないよ。

#### 4 限目の児童の感想と疑問

- 天井に電気がない理由を聞きたいです。タンザニアの事をもっともっと知りたいです。
- ずっと窓が開いていることがわかりました。
- 天井を木で支えています。
- 集中しているのがすごかったです。
- 雑巾はあるのかな？ ほうきはあるのかな？ かばんはあるのかな？
- 集団登校でくるのかな？

#### < 5 限目：音楽を聞いて、身体でリズムを感じたり、歌ったりする。(音楽) >

まず、現地で購入したCDの音楽を聞かせた。少し大人な落ち着いた曲にあまり興味を示していなかったが、雰囲気や楽器の違いに耳を傾けていた。

次に、「幸せなら手をたたこう」を日本語で歌い、その後でスワヒリ語で歌ってみた。歌うことは大好きな子どもたちだが、カタカナで書かれた初めて聞くスワヒリ語に、「難しい。」と悪戦苦闘していた。リズムに乗りながら、手を叩いて、歌える部分だけ、一生懸命に歌っていた。

さらに、タンザニアの子どもの歌を「UKUTI UKUTI」の中から1曲選んで歌った。「読み方を知っていることに幸せを感じる」という意味の込められた歌「Kujua Kusoma」は、繰り返しの部分が多かったので、「難しい。」と言いつつも、最後には、自信を持って大きな声で歌えていた。また、上記2曲に共通して、furahaという言葉が出てきており、1限目にもFurahaという名の女の子が登場していたので、「幸せ」という意味だと伝えると、驚いていた。

### 実践授業を通しての所感・反省と今後の展望

実践授業を行う中で、湧き出す子どもたちの疑問は限りがないものの様に思える。もちろん、授業をしながら補足したり個別で応えたりしていくのだが、子どもの反応にこちらももっと伝えていきたいという想いが、授業の回を重ねる毎に強くなっている。

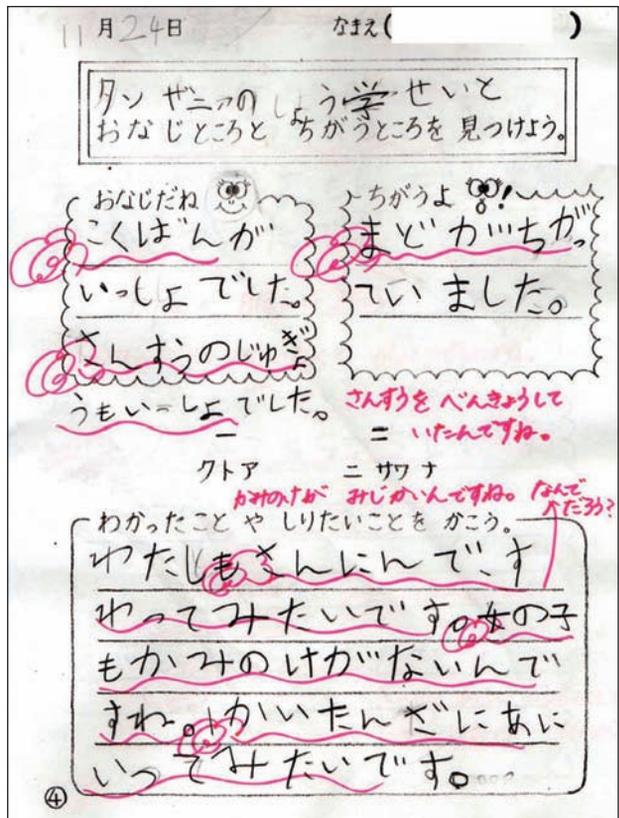
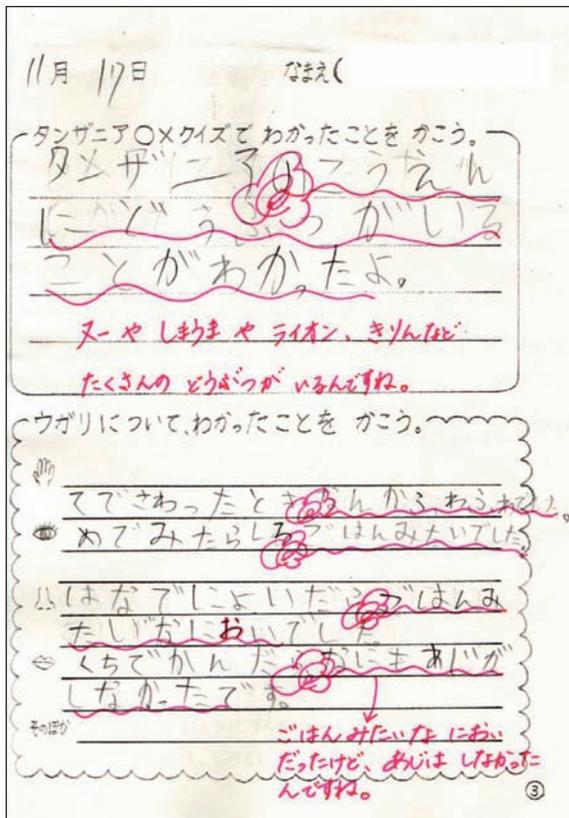
本学級以外の3学級を対象に実践した授業では、2時間という時間で、伝えたいことを少し詰め込みすぎたと反省している。また、子どもたちの疑問に応えきれず、興味・関心の芽を伸ばしきれなかった様に感じている。1限目にタンザニアについて知るということで、フォトランゲージを行った。ゴミ箱がない、門がない、水道がないなど、考えてもいなかったような視点での気づきをする児童が多かった。2限目には、生活にかかわる水について学習を進めた。湯船を使わない、トイレは自分で水を流すなど、これまでの子どもたちの「当たり前」が、実は当たり前ではなかったと知り、大変驚いていた。実施方法については、100人という大人数であったため、疑似体験などの場面でも、全員に発言や参加をさせられなかったため、少人数の方



が効果的と考える。とは言え、子どもたちの中には確かにタンザニアという国が存在し、すれ違う度に「外国のこと教えてくれる先生や。」「あさんてさあな。」と、声をかけてくれる。色んな場面を活用し、さらに伝える機会を持てればと考えている。

しかし、そもそも最初は、小学1年生に授業をして本当に成り立つのかと、自分を含め疑問の声が大きかった。しかし、「タンザニアを知ることが、世界を知る第一歩」という思いで、校長や学年からの後押しもあり、ここまで実施できた。とても素直で、たくさんの事柄を吸収する子どもたちだからこそ、伝える側の責任も大きいと感じている。例えば、ウガリ作成時には、作り方は、事前に練習していたものの少し粉っぽさが残ってしまった。食は記憶に残りやすく、子どもたちが現地の食事を口にする貴重な機会だっただけに、準備の大切さを身に沁みて感じた。

残りの授業では、子どもたちの頭の中に創られつつあるタンザニアを、少しでも実際に近づけられるように取り組んでいきたい。また、小学1年生なりに物の大切さ、物を上手に使う工夫や知恵について知り、考え、行動していくことができるようになってほしいと思う。水についての学習では、「タンザニアは大変だ。」「かわいそう。」という視点ではなく、タンザニアの人々の工夫や知恵を学ぶという視点で実践していきたいと考えている。それこそが、一人ひとりの生きる力を育むことに繋がるのではないだろうか。



ワークシートサンプル